

フロンティアスクール用報告書

都道府県名	広島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	東広島市立志和堀小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数 14
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	
児童数	6	8	11	11	13	6	0	55	

研究の概要

1 研究主題

豊かな心 確かな力 ～児童一人一人を大事にした学習の在り方を求めて～

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 国語科・算数科

【国語科】平成13年度の研究主題が「かかわり合い 伝え合う力を育てる」，平成14年度はそのつながりで，児童一人一人に確かな力を付ける取り組みを行ってきたので，平成15年度は，さらに焦点化した研究を行うため。

【算数科】本校児童の実態として，少人数であるが到達度の差が大きく，到達度が低い児童はどの領域においても課題をもっている傾向があるということが明らかになり，児童一人一人に確かな力を付けるための研究を深めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>① テーマ 豊かな心 確かな力 ～児童一人一人を大事にした学習の在り方を求めて～</p> <p>② 仮 説 個人評価カードや個人カルテなどを導入し個々の実態をつかみ，個別の指導，効果的なチーム・ティーチングを組めば，子どもの学力は付くであろう。</p> <p>③ 研究内容・方法 ○全職員が「国語・総合的な学習部会」と「学力定着（算数科中心）部会」の2部会に分かれて所属し，研究を推進していった。</p> <p><u>国語・総合的な学習部会</u> ☆ 総合的な学習と国語科の関連年間計画を作成し，1年間を見通した中で「かかわり合い伝え合う力」を付けていく。 ☆ 一人一人に力を付けることをねらい，話し合いの仕方についての指導の場面や話す練習の場面などにチーム・ティーチングを効果的に取り入れる。</p> <p><u>学力定着（算数科中心）部会</u> ☆ 一人一人を見つめ，実態に即した指導を行っていく方法として，自己評価カードや個人カルテを導入し，取り組みを進める。 ☆ 児童一人一人に自分の考えをもたせ，学習をまとめる力や学習を振り返る力を付けるためにノート指導の取り組みを行う。 ☆ チーム・ティーチングを効果的に取り入れる研究を進め，一学級内でのコース別学習，習熟度別学習や無学年制のコース別学習を積極的に取り入れる。</p>
----------------	---

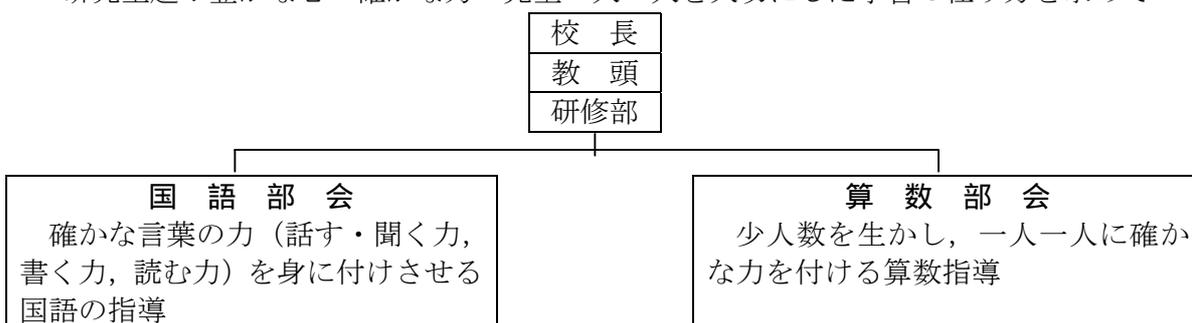
平成 15 年度	<p>【テーマ】 豊かな心 確かな力 ～児童一人一人を大事にした学習の在り方を求めて～</p> <p>【基本的な考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の教師の力量を高める研修をする。 ○ 学習班，生活班，特別活動などいろいろな場面で学習集団の質的向上を図る。 ○ 全職員が「国語・総合的な学習部会」と「学力定着（算数科中心）部会」の2部会に分かれて所属し，研究を推進していく。 <p>【研究内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師一人一人が「授業力」を向上させるため，校長が示した授業の基礎・基本にしたがって，自分の課題を明らかにし，課題克服のための取り組みを行う。 ○ 学習集団の質的向上を図るため，児童の実態を把握し，学習活動を考える。 ○ 児童が得意としている領域の力（漢字，計算）をさらに伸ばし，学習に対する自信を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科：漢字の定着率90%以上，NRTの言語事項の全国通過率を10%以上上回ること。 ・ 算数科：教科書の計算問題の定着率を90%以上，NRTの数と計算の全国通過率を10%以上上回ること。 <ol style="list-style-type: none"> ① 現学年までの2学期まとめの漢字と計算テストを行う。 ② 11月と2月の2回テストを行い，定着度を把握する。 ③ 学年のまとめについては，現学年までのテストを2月に行う。 <p>* 学級用と個人用の2種類を用意する。</p> <p>学級用では，正答率や誤答傾向，平均点を記録。さらに学級としての手立てを記載。個人用では，得点の記録，一人一人に応じた手立てを記載。児童に解答の様子を知らせてアドバイスし，解答用紙とともにファイルし，次の学年に引き継ぐ。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>② テーマ 豊かな心 確かな力 ～児童一人一人を大事にした学習の在り方を求めて～</p> <p>② 仮説 児童の実態を把握し，個に応じた指導の中で，効果的なかわり合いを仕組みば，児童の学力は付くであろう。</p> <p>③ 研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の反省を生かし，指導内容や方法について研究し，その成果を研究発表会で提案し，広く意見を聞く。 ○ 「学びのプロジェクトX志和」の共通の取り組みである『志和っ子の約束』を学年に応じて具体化し，系統的に学習規律を身に付けさせる。 読書，あいさつや返事，話す・聞く，発表の仕方等 ○ 家庭学習等で家庭との連携をより強固なものとする。 ○ 児童一人一人の力を見つめ，実態に即した指導，個に応じた指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人カルテ，自己評価カード ・ レディネステスト ・ 漢字定着度調査
----------------	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算力調査 ○ 児童一人一人に自分の考えをもたせ、学習をまとめる力や学習を振り返る力を付けるために、学年に応じたノート指導を行う。 ○ 年間学習計画に、異学年との交流を図る単元構成を位置付け、多様なかわりをもたせる学習活動の中で「伝え合う力」を高める。 ○ 学年卒を超えて、意図的な学習集団の構成を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1～3年生：おさらいタイム ・ 4～6年生：コース別学習 ○ 年間を通して、地域の方々との交流学習を行い、地域を愛する心情を育てる。

(3) 研究推進体制

研究主題：豊かな心 確かな力～児童一人一人を大切にした学習の在り方を求めて～



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

(1) 教師一人一人が「授業力」を向上させるため、校長が示した授業の基礎・基本にしたがって、自分の課題を明らかにし、課題克服のための取り組みを行うと、保護者の「授業への満足度」がアップするとともに、他にもよい影響がある。

◎ 学校評価（4：じゅうぶん満足 3：おおむね満足 2：努力を要する 1：特に努力を要する）

		授業の理解度	地域でのあいさつ	地域の声を聞く	たよりの分かりやすさ	子どもを大切にしている
14年度	4	33.0	29.7	39.0	21.0	37.0
	3	58.0	51.4	54.0	77.0	58.0
	2	7.0	19.9	7.0	2.0	5.0
	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15年度	4	23.1	31.5	33.3	33.3	44.6
	3	74.5	51.9	64.8	63.0	55.4
	2	2.0	16.7	1.9	3.7	0.0
	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

板書の記録，有効な指導方法と課題の明確化（5年国語科「動物の体」を例に）

目標：形式段落のうちの5つから初めと最後の段落を見付け、文章の概要を考える。

【板書を写真で記録する】

【有効な指導方法，その発問，指示，支援の記録】

ゲームのような感覚で全員が考えを出せる。
友達の意見を聞いて、接続詞やおよその文意に
考えを巡らせる。

また、ノートに理由を書かせることで自信を
もって発言することができる。

「①から⑤を音読しましょう。おかしいと思う
人は手を挙げなさい。」

「一番初めの段落はどれでしょう。その理由を
言える人はすばらしいです。」

【評価】

3 : 5人, 2 : 8人, 1 : 0人

【課題】

どの段落を選ぶかが、学習活動活性化のカギである。



○ 今年度の授業研究の考え方

豊かなかかわりの中で一人一人に確かな力を身に付けさせる学習指導

《個々の教師の授業力を高める》

《児童の状況を把握し学習活動を考える》

●単元の価値：児童にとって、単元を学ぶ価値は何か

●単元の技能的目標：単元で身に付けさせたい力は何か

〈重点研修項目〉

- ・ 分かりやすくて確な発問や指示をする
- ・ 児童に考えさせる時間を確保する
- ・ 板書等の工夫により児童相互の考えを交流させる
- ・ ノート指導の工夫をする

〈具体的な取り組み〉

- ・ 単元全体の板書計画を立て、発問・指示を記す
- ・ 児童のノート等の計画を立て、評価A・B・Cを記す
- ・ 実際の板書を写真で記録する
- ・ 有効な指導方法や課題を明らかにする

●単元の行動的目標：児童にどのような姿を望むのか

以上の3点を、学習指導要領に示された内容に対して児童の状況を把握し、それを伸ばしたり改善したりする手立てを考え、学習指導案を作成する。

《各学期に実践交流会を行う》

日々の取り組みの成果と課題の交流、効果的な指導方法の共有。

(2) 漢字指導において「指書き なぞり書き うつし書き」のステップを忠実に守り、学年に応じたノートの工夫やテストによる定着度を把握する取り組みを行えば80%以上の定着を図ることができる。

◎漢字定着度調査

1年2学期	2年2学期	3年2学期	4年2学期	5年2学期	6年2学期
-------	-------	-------	-------	-------	-------

	11月実施	11月実施	11月実施	11月実施	11月実施	11月実施
1年	99.0					
	全員、とめ、はね、はらいが正確にできていないので、個に応じて指導を続ける。似た形の漢字の誤答が多いので絵などで分かるようにする。					
2年	90.0	96.0				
	とめ、はね、はらいの徹底。授業中の漢字プリント。おさらいタイムの実施。家庭学習での総復習プリント。					
3年	97.2	75.8	83.8			
	正しい字形をなぞらせる。漢字の成り立ちに戻って考えさせる。読み方の違いによる用法プリントの準備。					
4年	95.0	84.1	74.2	88.0		
	とめ、はね、はらいの徹底。前学年のプリント準備での自主学習。朝時間の小テストで前学年の内容も確認。					
5年	99.6	92.7	94.5	94.5	96.6	
	漢字の意味の徹底。柱と注など。同じ部首の漢字を集中的に練習。教室にテスト問題を掲示し友達どうして学習。前学年のテストの活用。					
6年	100.0	97.5	93.3	85.7	77.0	83.0
	間違えた漢字を正しく直して、さらに3回練習して覚える。					

(3) 計算指導において、教科書の問題を丁寧にノートに解くことやテストによる定着度を把握する取り組みを行えば、80%以上の定着を図ることができる。

◎計算力調査

	1年2学期 11月実施	2年2学期 11月実施	3年2学期 11月実施	4年2学期 11月実施	5年2学期 11月実施	6年2学期 11月実施
1年	93.3					
	確かめを確実にする指導の徹底。引き算を重点的に復習。					
2年	99.2	88.1				
	引き算筆算プリント。おさらいタイムでのドリル学習。朝時間での計算練習の継続。					
3年	95.4	79.0	93.6			
	空位のある引き算の復習。加減乗除の計算をバランスよく取り入れ、定着率を上げる。					
4年	97.1	92.7	95.5	88.2		
	○+○-○タイプの練習。2回繰り返し下がる引き算の復習。4年の割り算の復習。家庭学習での連携。					
5年	99.4	96.5	97.7	90.8	75.7	
	補助計算をきちんと書くことの徹底による計算ミスの減少をめざす（特に4、5年生の問題）。小数点移動の意味の確認。					
6年	100.0	99.2	99.2	95.8	91.7	92.7
	計算ミスをなくするために数字をていねいに書く。定規を使うことの徹底。確かめを確実にする指導と家庭との連携。					

ノート指導の実際

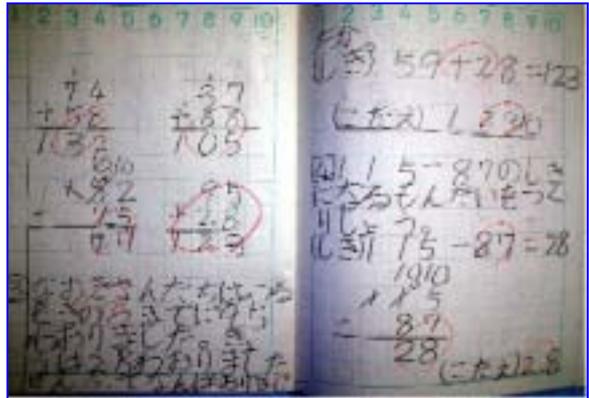
【漢字指導5年】

- ① なぞり書きができた子から○をつける。
○をもらったら、うつし書きへ。
- ② うつし書きができたらノートへ練習。
- ③ 次のことをチェックする。
 - ・日付
 - ・読み仮名、送り仮名
 - ・部首、画数
 - ・スキルの文例
- ④ 合格した子から、スキルの文や言葉を視写。読みの学習が同時にできる。



【計算指導2年】

- ① 位をそろえて書く。
- ② 定規の使用の徹底。
- ⑤ 繰り上がりや繰り下がりの補助計算を確実に書く。
- ⑥ 文章問題では、問題文を確実に視写する。また、解答すべき言葉に線を引く。
- ⑦ 式、筆算、答えの3つができたことを確認する。



2 今後の課題

- (1) 児童一人一人や保護者、地域にとって満足度がさらに高い学校にしたい。
目標として、
 - 学校評価の「授業が分かりやすい」「授業参観等が楽しみである」を全員3～4へ
 - NRTの結果をどの学年も前年度よりも上げることが掲げる。そのために、個々の教師の授業力を高める取り組みを継続し、さらに研究を深めることと児童の実態に併せて新たに取り入れることを見極めていきたい。
- (2) 国語科においては、表現する力を伸ばしていくの必要性が高い。
特に、作文の力や自分の考えを相手に伝えることである。国語科では、すべての教科等のもとになる言語の力を養うことが大切である。
論理的に考える力を育てるうえで、本校における国語科の表現力の向上は大きな課題である。
- (3) 算数科においては、ノート指導のさらなる充実を図りたい。
それは、計算ミスを減少させたり、自分の考えをはっきりともたせたりすることにつながるからである。
また、身に付けた計算力を文章問題等に適応させる力を伸ばしたい。文章問題を苦手とする児童にとっての課題を明確にし、指導に役立てたい。
例えば、文意がとれないから、立式はできるが計算ミスがあるから、など一人一人の課題に即した指導の手立てを考えていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

1 NRTによる学力の把握

(◎ : 全国通過率を10%以上, ○ : 5~10%上回る ● : 10%以上, ▼ : 5~10%下回る)

(1) 国語科

(2) 算数科

		平成15年度	平成14年度			平成15年度	平成14年度
		偏差値				偏差値	
2年	偏差値	48.4		2年	偏差値	48.1	
	話す・聞く (全国平均)	62.5● (76.2)			数と計算 (全国平均)	74.1 (76.8)	
	書く (全国平均)	61.4 (57.7)			量と測定 (全国平均)	62.5● (73.0)	
	読む (全国平均)	40.0● (50.0)			図形 (全国平均)	71.1 (73.1)	
	言語事項 (全国平均)	79.1 (76.7)			数量関係 (全国平均)		
3年	偏差値	50.9	50.5	3年	偏差値	50.9	42.6
	話す・聞く (全国平均)	78.1 (80.0)	70.0▼ (76.2)		数と計算 (全国平均)	79.2 (79.2)	66.1● (78.5)
	書く (全国平均)	52.6 (53.6)	57.9 (57.7)		量と測定 (全国平均)	71.8▼ (78.0)	64.6▼ (71.1)
	読む (全国平均)	63.2 (60.7)	50.1 (50.0)		図形 (全国平均)	83.6△ (75.3)	56.5● (71.3)
	言語事項 (全国平均)	78.1○ (72.3)	83.0◎ (76.7)		数量関係 (全国平均)		
4年	偏差値	56.8	55.2	4年	偏差値	56.5	51.6
	話す・聞く (全国平均)	86.0◎ (77.3)	87.3○ (81.3)		数と計算 (全国平均)	84.0◎ (73.2)	82.4 (81.7)
	書く (全国平均)	68.5○ (61.3)	70.1◎ (57.9)		量と測定 (全国平均)	76.4◎ (64.7)	74.9◎ (61.1)
	読む (全国平均)	68.3○ (58.6)	76.0◎ (64.3)		図形 (全国平均)	86.7◎ (74.6)	72.3 (71.3)
	言語事項 (全国平均)	78.3◎ (62.4)	83.4◎ (75.5)		数量関係 (全国平均)	84.2○ (77.5)	
5年	偏差値	51.6	48.3	5年	偏差値	54.2	53.6
	話す・聞く (全国平均)	59.7▼ (64.7)	79.0 (80.0)		数と計算 (全国平均)	80.0◎ (68.8)	76.5○ (71.3)
	書く (全国平均)	65.2 (67.7)	58.4 (61.3)		量と測定 (全国平均)	74.0 (69.3)	73.2○ (65.0)
	読む (全国平均)	57.3 (53.1)	56.1 (60.7)		図形 (全国平均)	87.2○ (80.0)	74.7○ (65.6)
	言語事項 (全国平均)	74.0◎ (60.0)	59.3 (61.9)		数量関係 (全国平均)	75.7○ (70.6)	76.2 (74.0)
6年	偏差値	55.5	55.0	6年	偏差値	55.2	59.5
	話す・聞く (全国平均)	81.5◎ (70.0)	64.8 (64.7)		数と計算 (全国平均)	67.5○ (62.2)	83.3◎ (65.5)
	書く (全国平均)	66.7○ (61.3)	83.8◎ (70.8)		量と測定 (全国平均)	54.3◎ (40.7)	78.3◎ (57.5)
	読む (全国平均)	61.7 (61.3)	64.7◎ (55.6)		図形 (全国平均)	64.7○ (55.6)	90.8◎ (65.6)
	言語事項 (全国平均)	79.2◎ (63.5)	77.0◎ (61.6)		数量関係 (全国平均)	56.0○ (47.1)	73.2◎ (62.8)

- 2 定期的な学力調査の実施
単元ごとに、児童一人一人の学力の定着度を測る。
- 3 年度末のたしかめテストの実施
学年終了時に、その学年の内容がどれだけ身に付いているか把握する。
- 4 無学年制チーム・ティーチングによる算数科学習での実態把握，報告
チーム・ティーチングによる効果を上げるため，校内研修で報告会を行う。
- 5 漢字定着度調査，計算力調査の実施，報告
平成15年度の反省をふまえ，実施方法を検討する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 平成16年10月22日研究公開「学びのプロジェクトX志和」
東広島市立志和中学校，東広島市立志和堀小学校で研究公開発表，授業研究。
- 2 学校ホームページ
学校ホームページに授業実践や学年，学校全体，地域行事等の取り組みを紹介し，随時更新していく。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T. Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無